

第4回 パラダイムシフトと日本のシナリオ懇談会 議事概要

1. 開催日時：令和元年5月17日（金）16：15～17：30
2. 場所：中央合同庁舎第8号館8階 特別大会議室
3. 出席者：安宅和人氏、大石佳能子氏、落合陽一氏、須賀千鶴氏、高田旭人氏、
高橋進氏、牧野光朗氏、宮田裕章氏
（内閣府）茂木大臣、多田政策統括官、田和政策統括官
（内閣官房日本経済再生総合事務局）新原事務局長代理補

<技術革新による経済・社会の変化について>

- ・Society5.0の下、世界的に見て日本には二つの大きな可能性がある。一つは人口減少の中での成長。例えば、地方の公共交通機関を戦略的にダウンサイジングすることは、単なる撤退戦略ではなく、第4次産業革命を活用した新しいモビリティ市場を創出する成長戦略となる。もう一つは、高齢者の社会参加や生活支援。年齢で仕事を奪うのではなく、先端テクノロジーやデータの活用によって高齢者が社会参加し、例えば認知症でも普通の生活ができる社会の在り方は世界からも注目されている。
- ・社会を良くするには、個別の取組の積上げだけでなく、ゼロから理想の社会を考えていくプロセスも必要。
- ・テクノロジーを活用して、都市集中型の未来だけでなく、地方の社会的コストを引き下げる必要がある。

<生産性と価値の創造、イノベーションについて>

- ・労働生産性という言葉からは、工場で働く人の生産能力や機械の馬力などがイメージされるが、実際には、時計作りや自動車のデザインなどアート性が高いものが付加価値を生み出している。労働生産性という言葉の捉え方が人によって異なることが本質的な課題であり、労働生産性に代わる共通認識ができる言葉が必要。
- ・地方の中小企業の中には、自分たちが作っているモノの価値が見えていない場合もある。価値を生み出すためには、事業を行っている当事者にその価値を気づいてもらうことが重要。
- ・イノベーションというと「新しいものを生み出す」と捉えられがちだが、既にあるがうまく使われていないものを探して、それを磨いて伝えていくことにも価値がある。
- ・イノベーションを進めるためには、既存の価値に乗らないものを許容する土壌を作ることが重要。
- ・日本社会が潜在的に持っている感性などの価値を技術によって現実価値に変えていくことができていない。規制改革や教育システムの見直しを含めた政策体系が必要。

例えば、弘前大学による長寿命化プロジェクトは、ビックデータの活用、医師会・企業・住民との連携等がうまく体系化されており、そのエッセンスを国の取組としても制度化すべき。

<人材育成、働き方について>

- ・生産性の高い人材は、組織の中で既にフリーランサー化している。日本らしいオープンイノベーションを進めるためには、優秀な人材を特定の組織に閉じ込めておくのではなく、兼業などを通じ社会で幅広く活躍できるようにしていくことが不可欠。
- ・入社した時から起業や兼業など多様な働き方を認めていくことが、生涯現役社会の実現につながる。テンセントでは事業を成功させると、そのうちの10%が個人の収入となる仕組みを用意し、起業を促している。
- ・夢を技術で解き、デザインで解決する人材を育成する必要があるが、人材育成の目指す像も育成方法も変わっていない。価値を生み出す人を見つけ、育てることが不可欠。新しい価値を生み出す研究者や大学院生の待遇を引き上げるべき。

<経営の在り方について>

- ・技術の活用を含めた経営の質が重要。例えば、介護の生産性を抜本的に上げるのはITではなくシフト管理の仕方。現場の知恵の活用が中小企業から始まり、それが付加価値という共通用語となって大企業に合わせてもらうという流れが重要。
- ・薄利多売方式で安くても良いもの売るスタイルではなく、受注単価を上げることが経営方針として正しいということを発信していくことが重要。
- ・企業は豊富な内部留保を活用すべき。中国企業は豊富な資金を使って、良い技術を持っているが高く売れない日本の中小企業を買っており、技術が流出している。ユニークな技術を持っている中小企業をいかに守るかを考える必要がある。
- ・日本企業では社内に、リスクを取って起業まではしたくないが優秀な人材がたくさんいる。経営者がリスクを取って社内でイノベーションが起きるきっかけを作ることが実は日本らしいやり方ではないかと考えている。

<社会保障の在り方について>

- ・地域医療構想の実現には課題が多い。現行の診療報酬制度の下で病院経営はぎりぎり可能で、各病院には病床を再編するインセンティブがない。また、医療機関にも株式会社のように市場から退出したり、構造転換のインセンティブの仕組みを作る必要がある。
- ・病床再編に向けて推進力が必要なのは確か。厚労省でも公的病院の統合、集約や地域連携による機能集約を進めていくための議論が行われているが、うまく進むかどうか楽観はできない。

(速報のため事後修正の可能性あり)